

新人戦報告書（B班）

- ・ はじめに

今回、望月ゼミB班と徳田ゼミとの間で財政問題のひとつ「年金」についてディスカッションを行いました。大まかな流れとしては、前半は現代の年金システムの問題点をそれぞれ挙げ、後半ではその問題点を解決するためにどのような制度に改めるべきか具体的な制度を各班持ち出しそれについて各班質疑応答、ディスカッションという流れで充実した時間をすごせました。

- ・ 新人戦までの動き

やることなすことがすべてはじめてであり、戸惑う部分もありましたが、テーマ設定が春合宿段階と比較的早く、その後も共通文献の選定、各個人一人一人の役割分担もスムーズにいけたこともあり、論文の仕上げは予定通り行えました。

ただ、根本的に相手方の徳田ゼミさんとはゼミの運営方針が異なるため、中間レジュメや論文を書く意味の認識の違いがあり、相手方は参考文献のまとめのような形になったのに対し、こちらは一方的に意見を述べる形となったため「年金」以前の話し合いに時間を割いてしまいました。

また同様に、一筋に「年金」を挙げたものの様々な年金制度の中でどこまで手を出し、どこから省くのかで多いにもめました。相手方は「公的年金」に重点を絞ったのに対し、こちらは、企業年金に重石を置いたため意見が折り合わず、何度も話し合いがもたれましたが平行線のまま本番を迎えました。

- ・ 本番の動き 具体的な討論内容等

はじめに、両ゼミの見解としてともに、国民年金は今後加速していく少子高齢化に対応できない、厚生年金についてはバブル期に設定された高利回りの一方で株価低迷などによる資金の運用難等で現行の年金制度は抜本的に見直しをしていくべきだということに一致しました。懸案だった企業年金についても現行制度を見直すに当たり、無視できないということで落ち着きました。

次に各班その具体的な改革案を持ち出し、それについてのディスカッションが行われました。

まず望月ゼミとしては、現行制度のように国民年金の部分は最低限の生活保障として残す一方、それ以上の生活を望む人たちに関しては自己責任の下、自分で運用していくべきだ、つまり確定拠出型年金（日本版 401K）を現行の確定給付型の代替として積極的に活用していくべきで、またその他の共済年金や厚生年金、企業年金等もすべて確定拠出型に含め、基本的に国民年金と確定拠出型の二本立てという形を提案しました。

一方、徳田ゼミさんは、国民年金を残し、いままでの厚生年金、共済年金等については国が一括で運用し、運用業績によって国民が納めた保険料の分だけ老後に年金がもらえる仕組みで、保険料の見返り分がある最低のボーダーを満たさなかった人については、最低ボーダーまでの分は多く受け取る人の一部を切り崩すと同時に、国の負担でまかなうというものでした。

これらのことについて各班の意見をおおまかに挙げてみますと、国民年金の唯一のメリットとも言えるべき物価スライド制については残すべきだということで一致しました。確定拠出型年金については、望月ゼミとしてはこれからはすべて自己責任の下で自由に資産運用を行っていくべきで、その代わり国が最低限のセーフティーネットを設けるべきであり、このような自主運用により世間の目が株等にも積極的に向くことにより経済活性化にもつながることを主張しました。一方の、徳田ゼミさんはそれにたいして、個人での運用は大変難しくリスクもあり貧富の格差が広がるため妥当ではないということで、結果国が積極的に運用していくべきだという見解でした。それに対し、こちらのゼミでは、今までの国などの運用失敗、個人の自主性などを挙げ、お互い積極的な意見交換が行われました。

最終的に現代の年金離れをこれ以上拡大しないように抜本的改革が必要ということで新人戦は終了しました。

- ・ 総括

本番までの話し合いはもちろんのこと、双方のゼミの先輩方の手助けによりよいディスカッションが行えたと思います。改めてこの場をお借りしてお礼を申し上げます。反省点としては一部班内の個別化を図りすぎたが故の連携不足があった点と、なにより両ゼミともに数字を使ったデータの不足が挙げられると思います。これらの反省を次回以降いかせればと思います。

以上です。

B 班代表 渡邊